

オープンガバナンスで開く地域の未来

東京大学公共政策大学院

奥村裕一

2017年8月10日

目次

- **オープンガバナンスの背景**
 1. 外国におけるオープンガバメント／オープンデータ
 2. 日本のオープンデータ
 3. 日本における行政と市民との関係の変化－公共圏改革の兆し
- **オープンガバナンスとは**
- **チャレンジ！！ オープンガバナンス（COG）**

(その前に) 3つのオープンな社会システム

- **オープンデータ**
- ⇒ **機械可読形式と二次利用可能な要件でのデータの公開**
⇒ **機械判読形式だけではすむか？**
- **オープンガバメント (プラットフォーム型行政)**
- ⇒ **市民との協働を追及する行政：データをオープンデータ形式で公開し、政策決定プロセスへの市民参加を促し、政策遂行では市民との協働を追及する行政**
- **オープンガバナンス**
- ⇒ **自立型市民とプラットフォーム型行政の協働による公共サービスのオープンな展開**

オープンガバナンスの背景1 – 外国におけるオープンガバメント・オープンデータ

オバマ政権が始めた オープンガバメント（2009年）



• オープンガバメント三原則表明

＜デジタル時代の政府＞ 大統領署名の覚書

1. 政府は透明になる→公共知基盤形成⇒オープンデータ

- 情報は国民の財産（国民と情報の共有）
- コンピュータ分析可能な生データ

2. 国民が政策決定に参加する→市民参加型民主主義

- 政策決定への国民参加
- 知識の広範な収集
- 〔国民⇔国民〕 ⇔ 行政

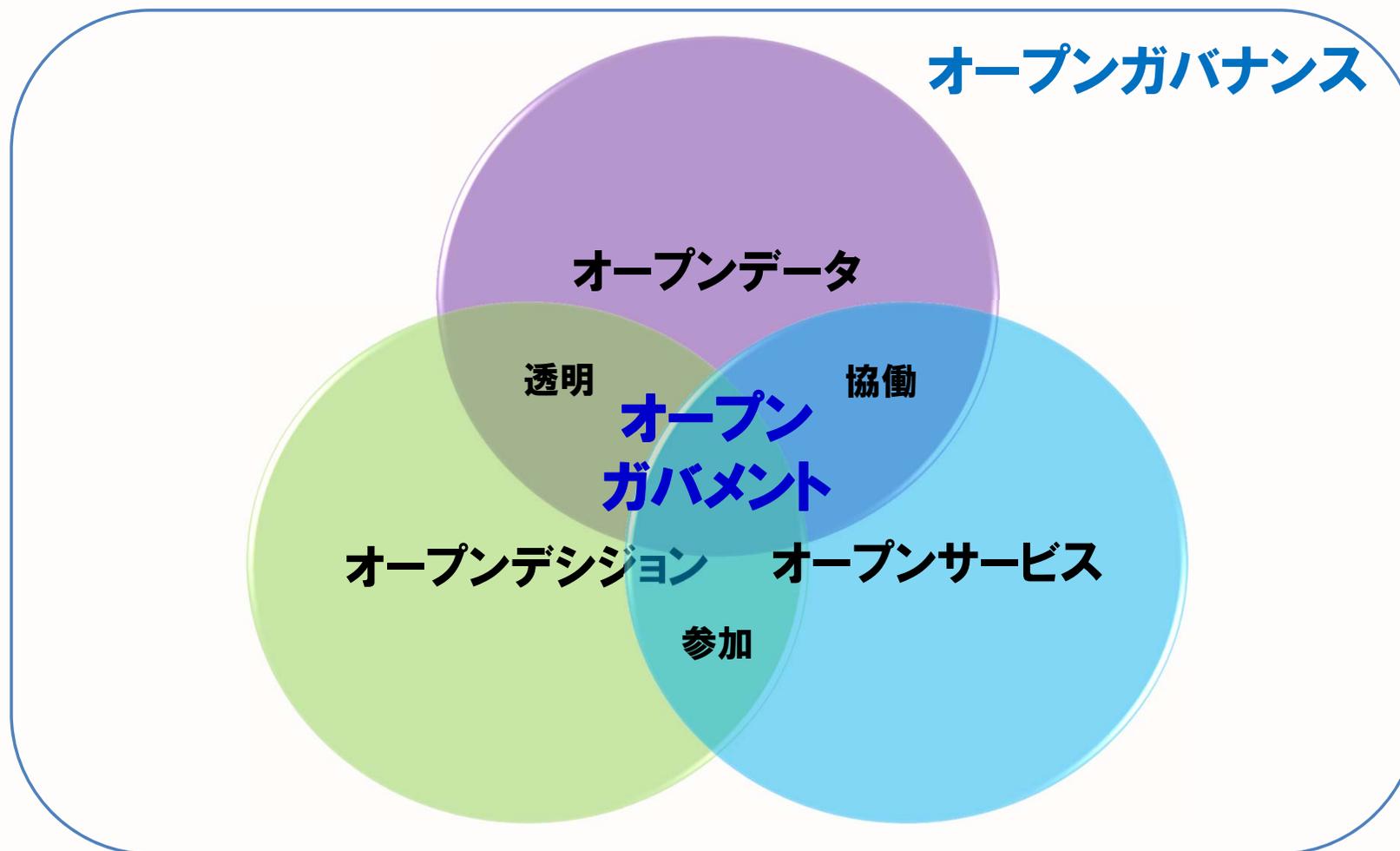
3. 国民と協働する→官も民も公共サービスの担い手

- 省庁間 中央/地方 政府/国民の組織の壁を越えた協働

米国オープンデータポリシー(2013)

- **公的機関** - 「開放性を前提」を採用することを求める
- **アクセス可能** - 便利で、変更可能で、検索可能で、機械で読み取り可能で、差別的でない
- **明快な記述** - 消費者がその限界と可能性を理解できるように、完全に文書化されている
- **再利用可能** - オープンライセンスのもとで使用制限なしで公開
- **完全** - 可能な限り細かいレベルの粒度を持つ形式で公開
- **タイムリー** - できるだけ迅速に利用可能
- **リリース後の管理** - ユーザーを支援するべく連絡先明確化

オープンガバメント概念図（欧州委員会）



オープンデータ憲章（2013年G8サミット）

<公開データの特徴>

オープンデータを政府/地方自治体の標準設定にする

オープンデータを管理の前提にする

データの品質と量を改善する

タイムリーで包括的で正確な高品質なオープンデータ

誰もが利用できるようにする

無料、無制限

<公開データの目的>

ガバナンス向上のためのデータの公開

民主的なプロセスを強化する

イノベーションのためにデータを公開する

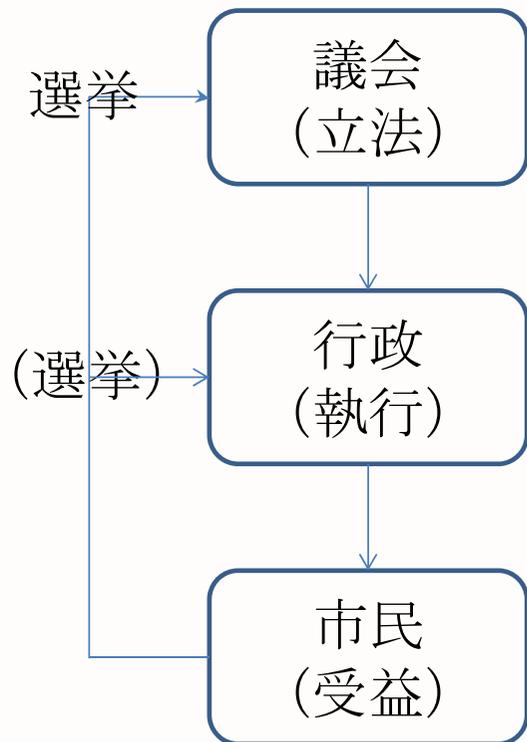
民間部門におけるデータ利用の革新、産業振興

クローズドからオープンへ

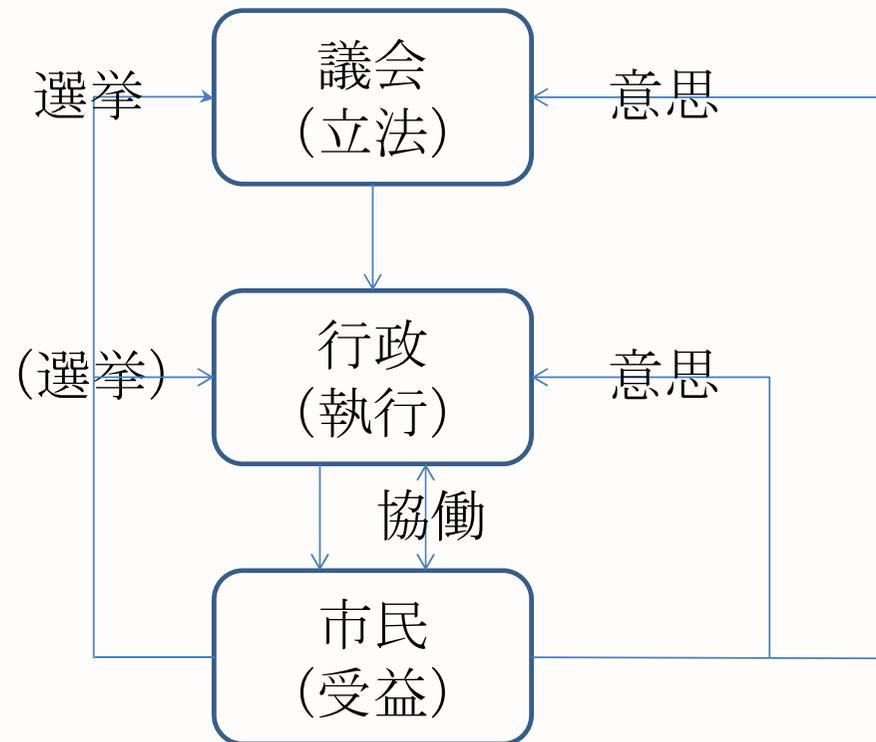
- **行政の歴史的転換期**
 - 君主の時代⇒民主の時代
 - オープンな議会（立法）とクローズドな行政（執行）
 - ⇒立法と行政の違い
 - ⇒政治と行政の違い
 - ⇒オープンな行政
- **地域コミュニティの崩壊と再生**
 - 生活：仕事：家庭：コミュニティ
- **デモクラシー 2.0 の到来**
 - みんなで創る地域社会
 - 行政はプラットフォーム化
- **デジタル社会の恩恵**
 - つながりの制約開放
 - データ、データ、データ

デモクラシーと政府

デモクラシー 1. 0



デモクラシー 2. 0



オープンガバナンス背景 2 - 日本におけるオープンデータ

オープンデータの取組状況に関する内閣調査 2016年末

認知度	自治体数	%
良く知っている	489	27%
知っているが詳細は分からない	901	51%
名前は知っている	304	17%
知らない	94	5%
計	1788	100%

取組状況

取組状況	自治体数	%
自自治体のHPやポータルサイトで公開中	245	14%
複数自治体共同で作成したHPやポータルサイトで公開中	20	1%
都道府県のHPやポータルサイトで公開中	68	4%
公開中計	333	19%
自自治体のHPやポータルサイトで公開を計画中	148	8%
複数自治体共同で作成したHPやポータルサイトで公開を計画中	30	2%
都道府県のHPやポータルサイトで公開を計画中	55	3%
公開計画中計	233	13%
未公開（計画なし）	1219	68%
計	1785	100%

オープンデータの課題

行政

- 外部からのやらされ感がある！
- 現在でも忙しい！
- 街のエンジニアのためにやるの？
- 一部の人は熱心だが広がりがない！

エンジニア

- ビジネスチャンスがあるの？
- 市場は小さいし行政がアプリを買ってくればよいが、、。
- 財政難でそれも色よい返事がない、。

市民

- オープンデータだけでは使えない！
- エンジニアの話でしょ？
- 専門知識がいりそう??

オープンガバナンスの背景3:日本における行政と 市民との関係の変化－公共圏改革の兆し

公共圏改革：3つの兆し

- **地方自治体レベルで市民参加・協働の推進**
 - 住民自治基本条例、市民参加条例、市民協働条例、市民主体条例など
- **阪神淡路大震災以降の災害対策やNPOの成長による公共サービスの担い手の拡大**
 - 自助・共助・公助
- **「国・行政のあり方に関する懇談会」（内閣官房行政改革推進本部事務局）2014年**
 - 民主党政権時代の「新しい公共」

希望の17か条

- 1 国にしか担えない領域は何か（あれかこれかの優先順位）
- 2 担うべき新たな役割
- 3 「組むこと」で課題解決
- 4 「永遠のβ版」的発想を導入
- 5 開かれたパブリック
- 6 オープンかつ科学的に政策をデザイン
- 7 霞ヶ関にチェンジメーカーを増やそう
- 8 加わらない・加われない人々
- 9 一人ひとりがリスクを自覚
- 10 行政が考える機会を奪っていないか
- 11 人とつながり「重なる」こと（「ドーナツ型」の発想）
- 12 社会課題の解決に参加
- 13 家族の枠を超えた支え合いの加速
- 14 社会の要請と自分たちがやりたいことを重ねる
- 15 システムやデザインの工夫で社会課題を解決
- 16 100年後の未来を一緒に話そう
- 17 自立した参加型の社会

公共圏改革の課題

行政

- 条例は作ったが？
- 協働のための協働になっていないか？
- オープンデータと同じで全国的な広がりはあるか？

エンジニア

- 関与することは少ない？

市民

- 一部のNPO活動で普通の市民は無関係？

オープンガバナンス

自立型市民とプラットフォーム型行政の協働による
公共サービスのオープンな展開

<背景>

1. 外国におけるオープンガバメント／オープンデータ
2. 日本のオープンデータ
3. 日本における公共圏改革の兆し

オープンガバナンス

- 市民が主体的に社会課題に取り組む
- 行政がそれを支えるプラットフォームになる
- デジタル技術を上手に使う

オープンデータからオープンガバナンスへ

Data-Design-Digital Driven地域コミュニティづくり

行政

- 仕事にオープンデータを使ってみる
- ↓
- 施策の改善に役立つことを知る
- ↓
- 同時に人の行動を知る(design)

TEC人材

- もっと市民に近づく
- ↓
- データの翻訳者になる
- ↓
- 同時に人の行動を知る(design)

市民

- 地域課題を自分ごとにする
- ↓
- データになじめるようになる
- ↓
- UXの解決策もわいてくる(design)

公共圏改革からもオープンガバナンスへ

Data-Design-Digital Driven地域コミュニティづくり

行政

- データ提供に力を入れる
- 市民と協働して行政サービスを改善する
- 市民でできることは行政がサポート役にとどめる

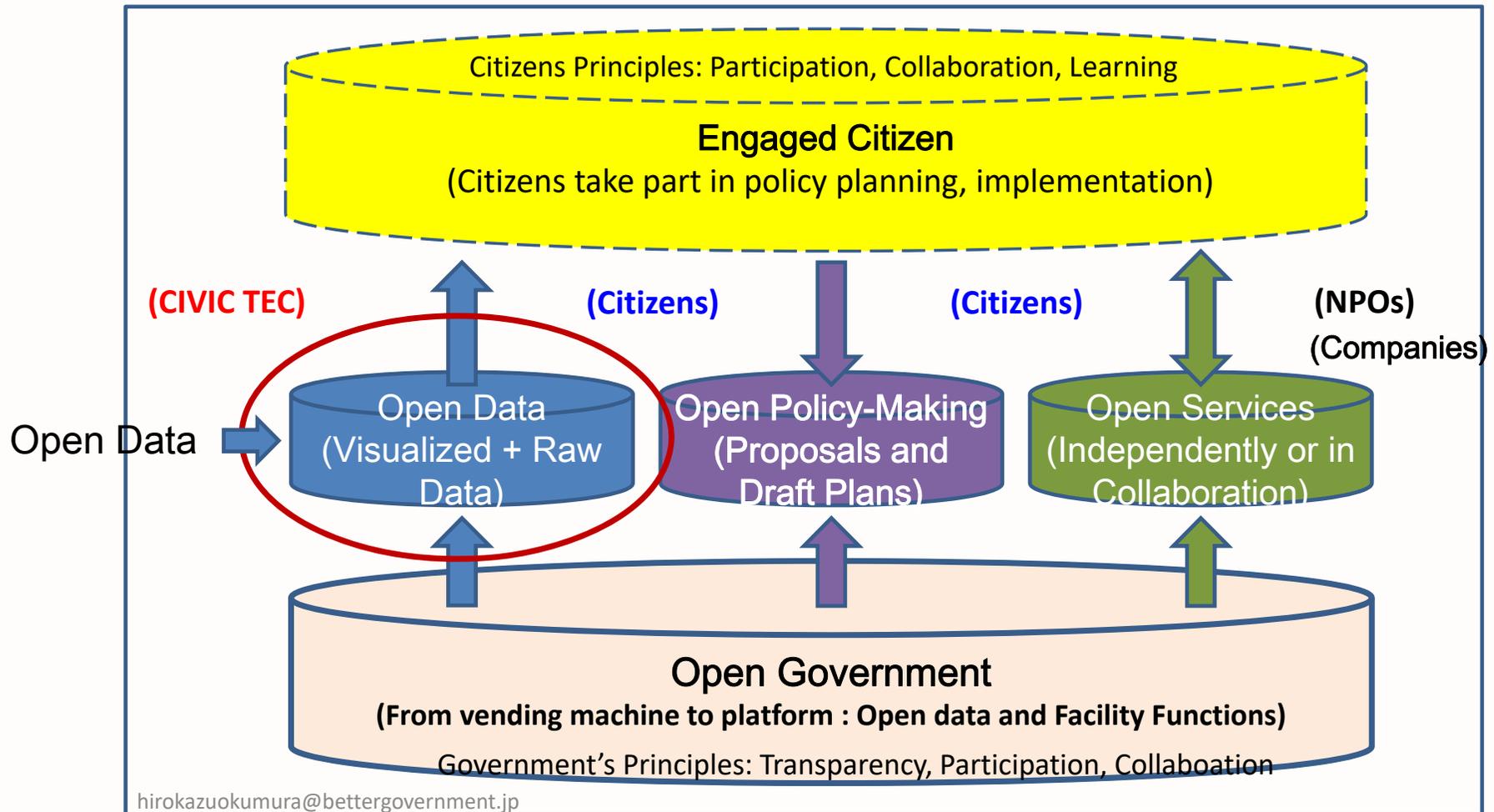
エンジニア

- もっと公共圏改革に技術を使う

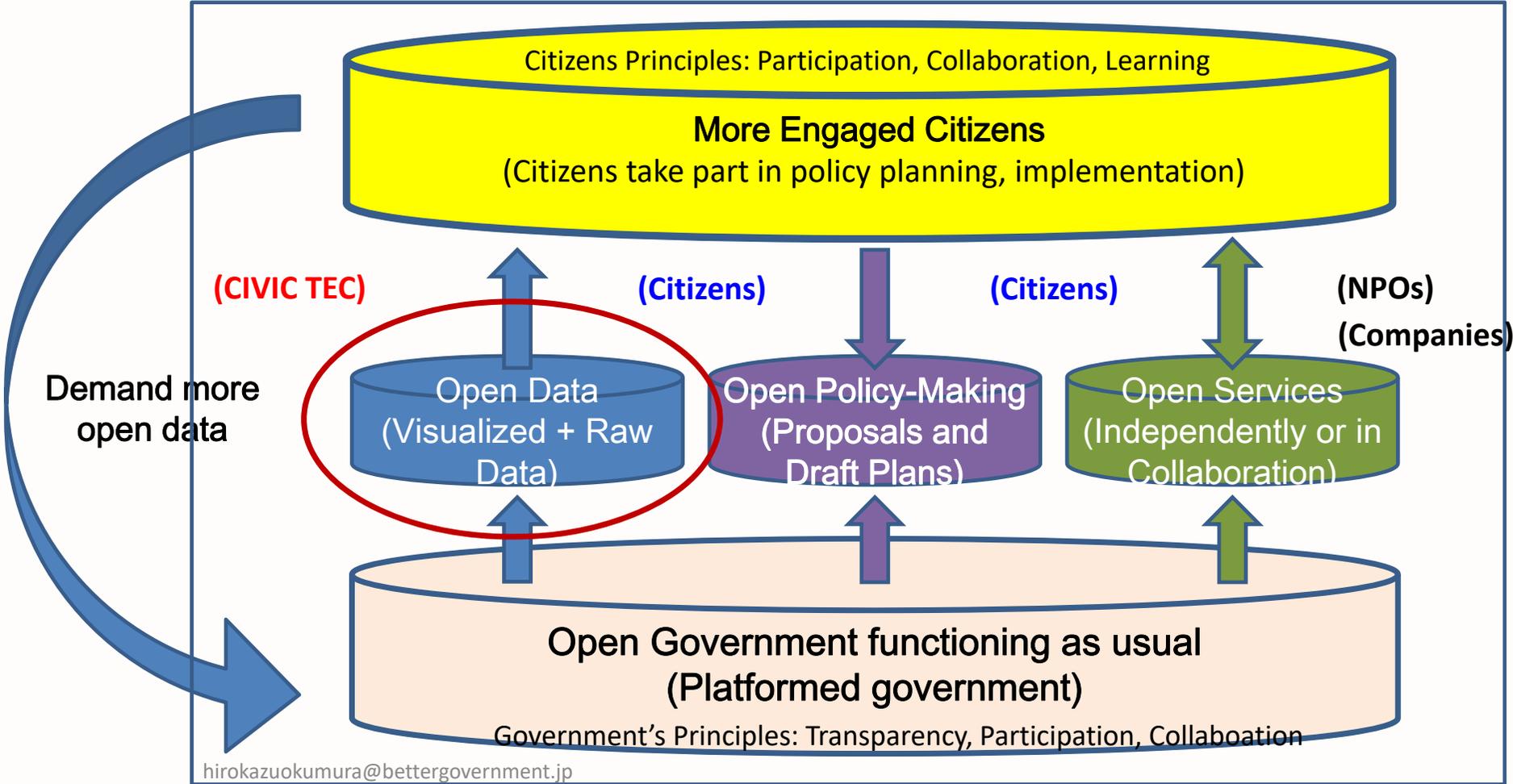
市民

- ユーザー目線を主体にして進める
- データを見ながらの科学的アプローチを身につける
- 市民でできることは市民がやる

オープンガバメント・オープンデータ モデル



オープンガバナンスモデル



COG2017 スタート！！

チャレンジ!!オープンガバナンス

COG

STEP1
参加自治体
募集中
——
応募締め切り
8月31日

データを活用し、地域課題を解決するコンテスト

2017

- ・COG総合賞
- ・アイデア賞
- ・連携体制賞
- ・ACN学生賞

主催：東京大学公共政策大学院「情報通信技術と行政」研究プログラム (PadIT)
共催：東京大学グローバル・クリエイティブ・リーダーシップ育成プログラム (GCL)
連携：ハーバード大学 ケネディスクール アッシュセンター

- ・最終公開審査対象
のフォローアップ
- ・1年後
- ・2年後

市民も変わる、行政も変わる!! オープンガバナンス

COGのモットー

- 市民も変わる : 地域の課題の解決に自分の問題として取り組む市民が増えています
(Engaged citizen)
- 学生も変わる : 市民参加型社会を担う未来の市民に自らを磨く学生が増えています
(Next citizen)
- 行政も変わる : 知識と経験を活かして市民参加型社会のプラットフォームとなります
(Open government)

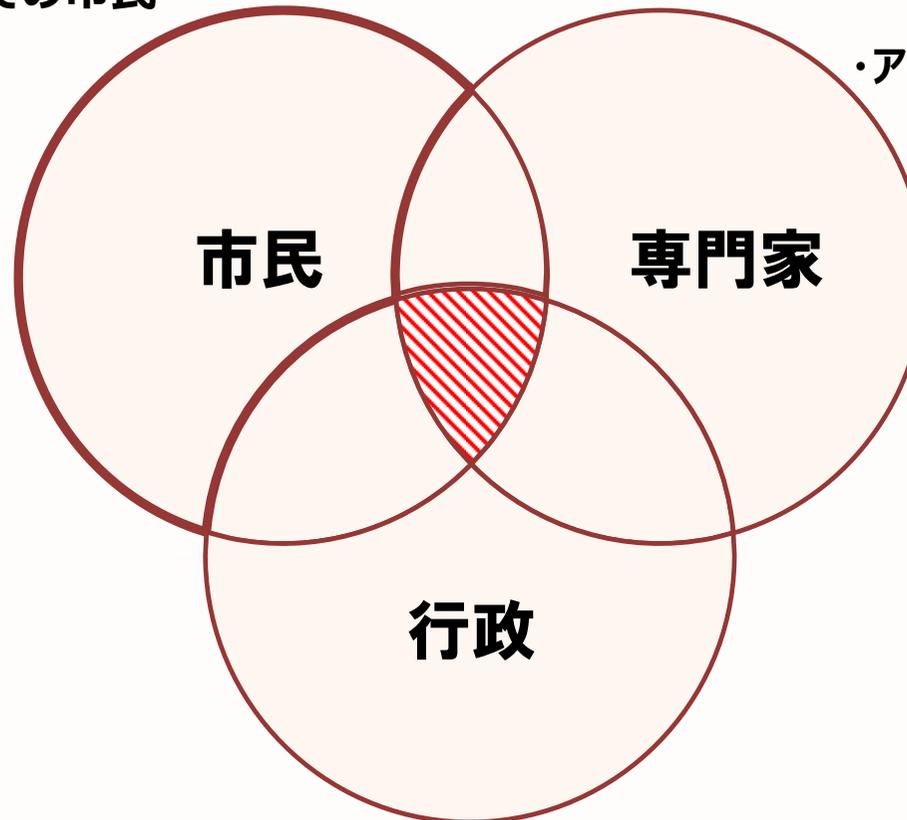
COGはこうした未来志向の市民や学生と自治体に
データを活用して地域課題の解決にチャレンジする機会を提供します

永遠のベータ版です！！

オープンガバナンスのプレイヤーたち

・アイデアのけん引役としての市民

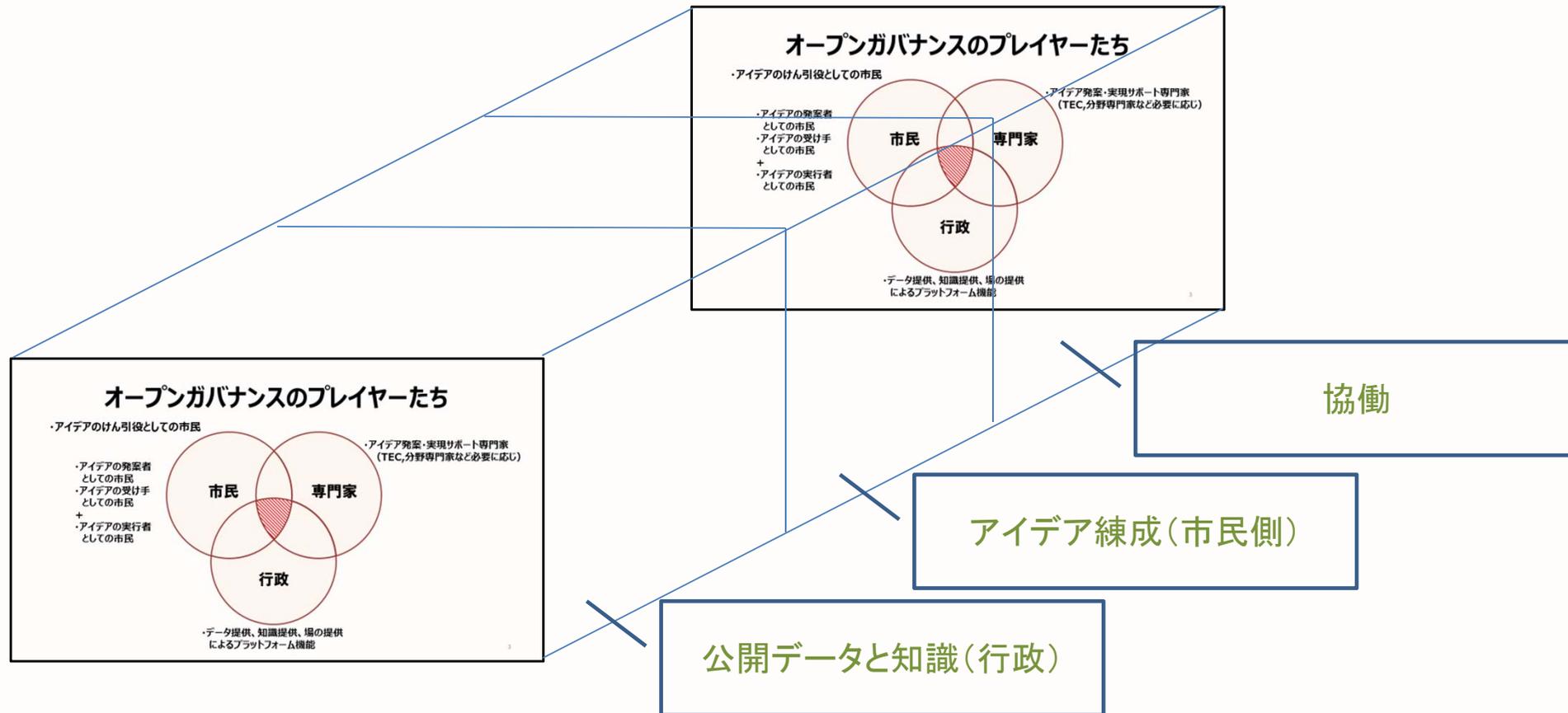
- ・アイデアの発案者としての市民
- ・アイデアの受け手としての市民
- +
- ・アイデアの実行者としての市民



・アイデア発案・実現サポート専門家
(TEC,分野専門家など必要に応じ)

・データ提供、知識提供、場の提供
によるプラットフォーム機能

プレイヤーたちと機能のモデル（案）



COGのステップ

STEP1

自治体からの課題募集 (2017年6月～8月31日)

- 全国の地方自治体から、市民／学生に解決してほしい地域課題を募集します。
- データを活用した新しい課題の分析や解決策に期待を寄せている自治体の方はぜひご応募ください。
- 2016実績
- 応募自治体31、課題数53

STEP2

市民／学生の解決アイデア募集 (2017年9月中旬～12月20日)

- 市民／学生の方々から、自治体からの課題に対する解決アイデアを募集します。
- データを活用して課題を掘り下げ、自分たちで解決策に取り組みたい方のご応募をお待ちしております。
- 応募アイデア数 68
 - 市民26、学生25、混成17

STEP3

審査と改善アドバイス (2018年1月～4月)

- 応募アイデアそのものに加え、市民／学生と自治体の連携体制も加味して審査します。
- 最終公開審査（3月）まで残ったチームには、委員会からの改善アドバイスがあります。
- 最終公開審査 13
- ミニプレゼン 7
- ポスター 27
- 原則全てアイデア公開

- オープンガバナンス総合賞(アイデア＋連携体制)
- アイデア賞 (市民／学生)
- 連携体制賞(自治体)
- Accenture Citizen First Youth 賞(学生)

2017/8/12

来年3月4日公開審査イベント

STEP1

自治体が以下の大ぐりから課題選定

1. 高齢化・介護・医療・健康
2. 子育て・家族・教育
3. まちづくり・交通
4. 環境・エネルギー
5. 防災・防犯
6. 産業振興（一次、二次、三次）
7. 地域プロモーション
8. 観光
9. その他

詳しくは[COG2017](#)サイトをどうぞ

- ・ 関連データは、自治体データベースに格納のものを利用します（紙文書指定でも可能）
- ・ オープンデータ形式に限定しません
- ・ 課題の担当部署が市民とともに積極的に課題を解決するオープンな行政スタイルを指向
- ・ 課題の担当部署の職員と課題関連データ担当部署の職員によるチームとして応募
- ・ 企画・広報・市民やデータ部門などの関連部署の職員が取りまとめ役として参加
 - ・ 自治体の状況によるので必然ではありませんが庁内の連携状況として評価
- ・ COG2016の応募自治体も募集できます

STEP2

- 地域課題と関連データ（オープンデータに限定せず） 自治体（夏）



- **アイデアづくり 市民／学生チーム（秋）**
- **アイデア ①内容、②理由（データ¹と²で裏付け）、③実現プロセス**
- **自治体連携状況 ①データ²提供、②知識提供、③コミュニケーション**
- **応募 市民／学生チーム**



- 公開審査（冬）

データの種類 1 = Thick Data、2 = 主にThin Data
Thick Data: 人間の行動のなぜを知るデータ
人の行動観察(エスノグラフィー)
Thin Data: 人間に限らず事実を知るデータ
統計やBig Dataなどから知る事実

応募の市民／学生チーム

- 応募自治体に住む、あるいは通う、もしくは課題解決に強い熱意があるなどの何らかの形で地域に縁を持ち、
- 住民目線で地域課題の解決に貢献したいと考える市民や学生のチーム
- チームのリーダーは、応募自治体に住む、あるいは通う条件を満たしている必要があります

STEP3

アイデアの審査

- **アイデアの応募提出書類**
 - アイデアの説明（内容、データを用いた論拠、実現プロセスなど）を重視
 - そのほか①焦点、②効果、③新規性、④展開性などについてもごく簡潔にアピール
 - 詳細は9月に公開する市民／学生の応募用紙で確認
- **最終公開審査での発表（市民／学生チーム パワーポイント使用）**

連携体制の審査

- 課題関連データ公開提供（問い合わせへの対応なども含む）
- アイデアが形成される際の、自治体による市民／学生の主体的な取り組みへのサポート
- アイデアが成熟し、実施に移行する際、自治体が市民／学生らとの協働
- アイデアをめぐって、市民／学生と自治体の間でオープンなコミュニケーションの場の活用の状況

- <最終公開審査対象チームについて>
- 市民／学生とその自治体を対象に追加調査
- 最終公開審査での発表（関係自治体 パワーポイント使用）

最終公開審査対象のフォローアップ

- **最終公開審査対象となったアイデア（連携が進んでいる場合はその状況も含みます）については、それが実り、地域の課題解決への貢献を期待**
- **このため、一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスの報告と公開**
- **適宜伴走も視野**

審査委員（委員長以下は50音順、敬称略）

- 城山英明 東京大学公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授（委員長）
 - 宇野重規 東京大学社会科学研究所教授
 - 大橋 弘 東京大学大学院経済学研究科教授
 - 川島宏一 筑波大学システム情報系社会工学域教授
 - 国谷裕子 元NHKクローズアップ現代キャスター
 - 坂井修一 東京大学大学院学情報理工学系研究科教授
 - 庄司昌彦 国際大学GLOCOM准教授
 - 関本義秀 東京大学生産技術研究所人間・社会系部門 准教授
 - 林 千晶 MITメディアラボ所長補佐
 - 渡辺美智子 慶応大学大学院健康マネジメント研究科教授（専門：統計科学）
- 運営コーディネーター：奥村裕一（東京大学公共政策大学院客員教授）

期待しているアイデア

- 課題解決につながる社会的な公共サービス（公共的活動）のアイデア
- 公共サービスといっても陳情や行政への単なるつけまわしではなく自分ごととして取り組む公共サービスを期待

- データを利用するアプリが実現手段として含まれることはあり

アイデアの分類	社会的ソリューション（活動）	アプリ開発（利用）（実現手段）
A	○	-
B	○	△
C	○	○
D	△	○
E	-	○

アイデアの分類

社会的ソリューション（活動） vs アプリ開発（利用）

アイデアの分類	社会的ソリューション （活動）	アプリ開発（利用） （実現手段）
A	○	-
B	○	△
C	○	○
D	△	○
E	-	○

データの利用形態

利用形態分類	データ利用形態		
	課題分析に利用		アプリのイン プットに利用
	Thick Data利用	Thin Data利用	
a	○		
b	-	○	
c	○	○	

(注) Thick DataとThin Dataの意味

Thick Data : 人間の行動のなぜを知るデータ 人の行動観察 (エスノグラフィー)

Thin Data : 人間に限らず事実を知るデータ 統計やBig Dataなどから知る事実

アイデア実現に向けての課題

- ① 実施体制 柔らかな市民グループのまとまりに必要なこと
- ② 資金的基礎 実現段階では避けて通れない基盤
- ③ アイデア磨き 「使っていいね」をさらによくする不断の努力
- ④ 制度の克服 ど真ん中のアイデアだけでなく周辺にも潜む
- ⑤ 以上を総合した持続的展開

連携体制

- 市民とどう手をつなげばよいのか vs 行政とどうつきあえばよいのか

できるところから両者のいいところ取りをし輪を広げる

- 組織文化の壁を破れるか

伝統的行政思考

デザイン思考

分業的

協働的

分析

統合

合理性重視

人の心重視

ロジカル

直観的

演繹的帰納的

仮説形成的

ソリューション

パラダイムシフト

法律/経済アプローチ

人間総合アプローチ

- 中央省庁との関係

COG2017

- COG2017の狙いや流れは基本的に昨年度と同じ
- 新しく参考としてCOGのアイデアづくりに役立つデザイン思考



あるといいね
使っていいね思考

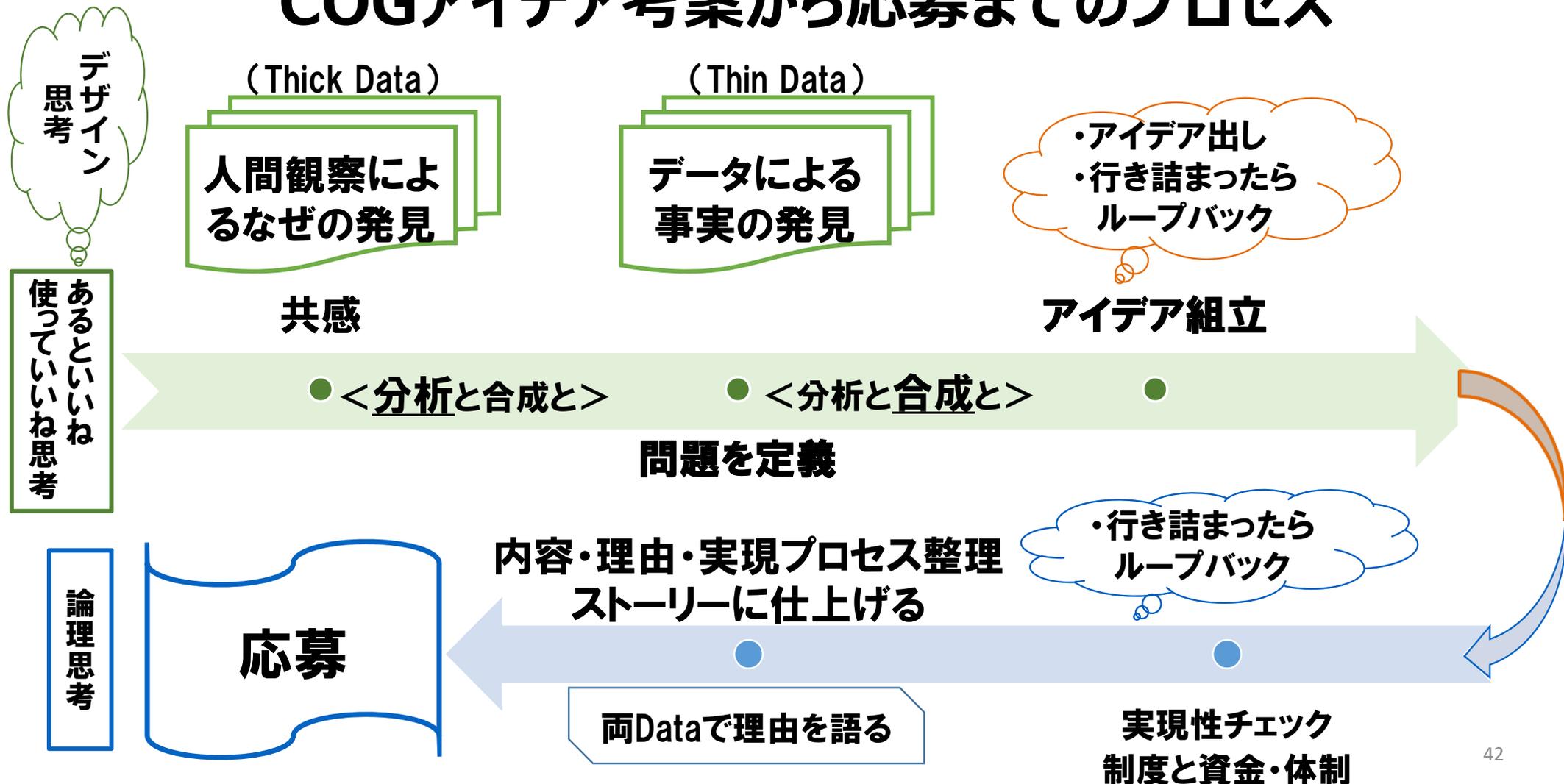
(Thick Data)

人間の行動のなぜを知る定性データ
人の行動観察 (エスノグラフィー)

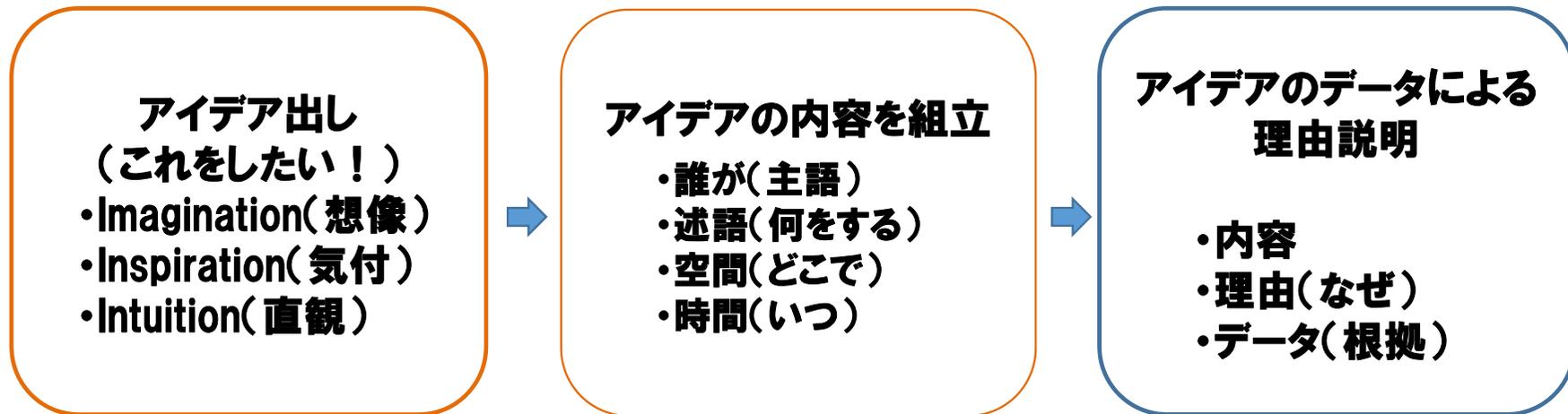
(Thin Data)

事実を知る定量データ
統計やBig Dataなど

COGアイデア考案から応募までのプロセス



最初のアイデア出しは3Iで！！



Thinking Fast

< Kahneman >

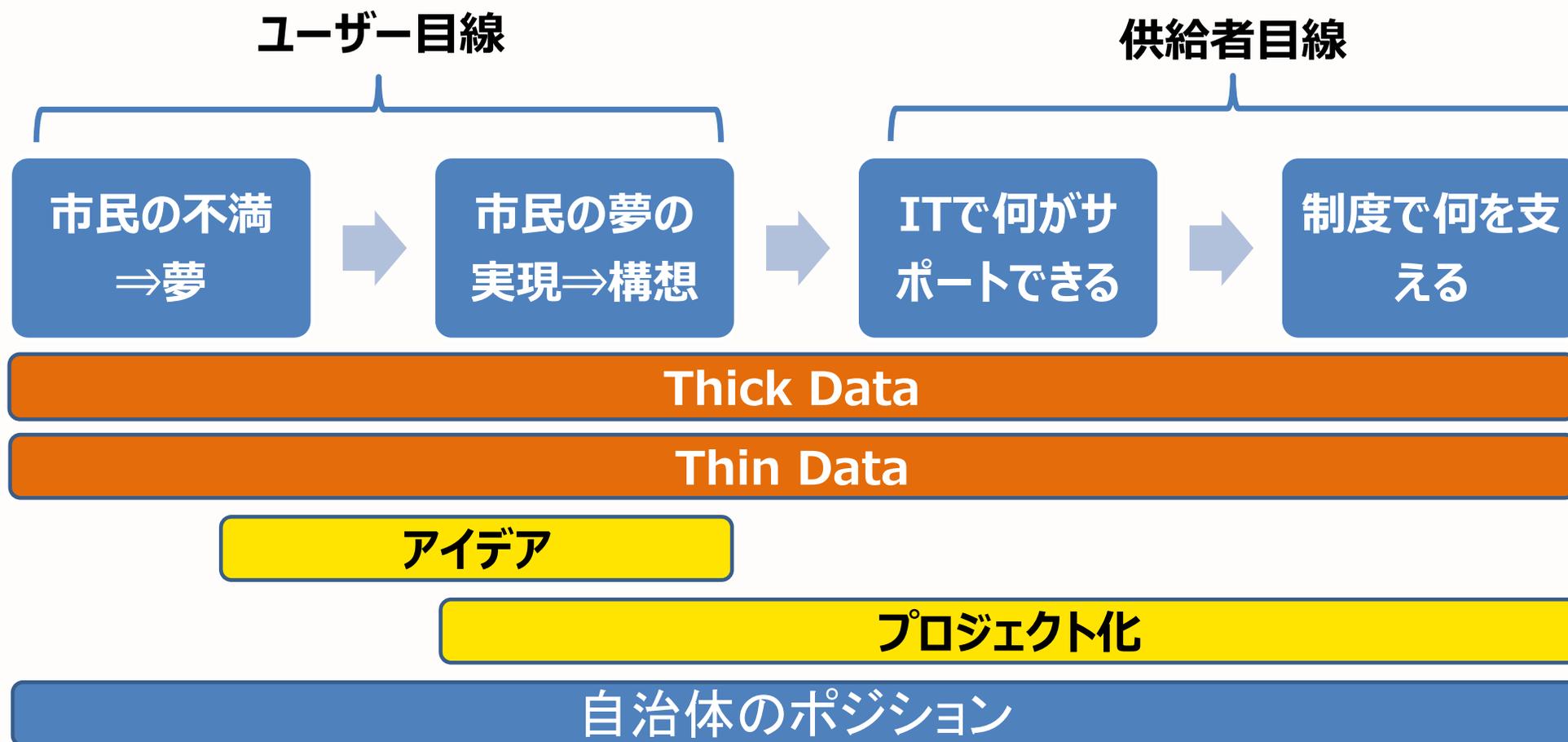
Thinking Slow

Thicker

Data

Thinner

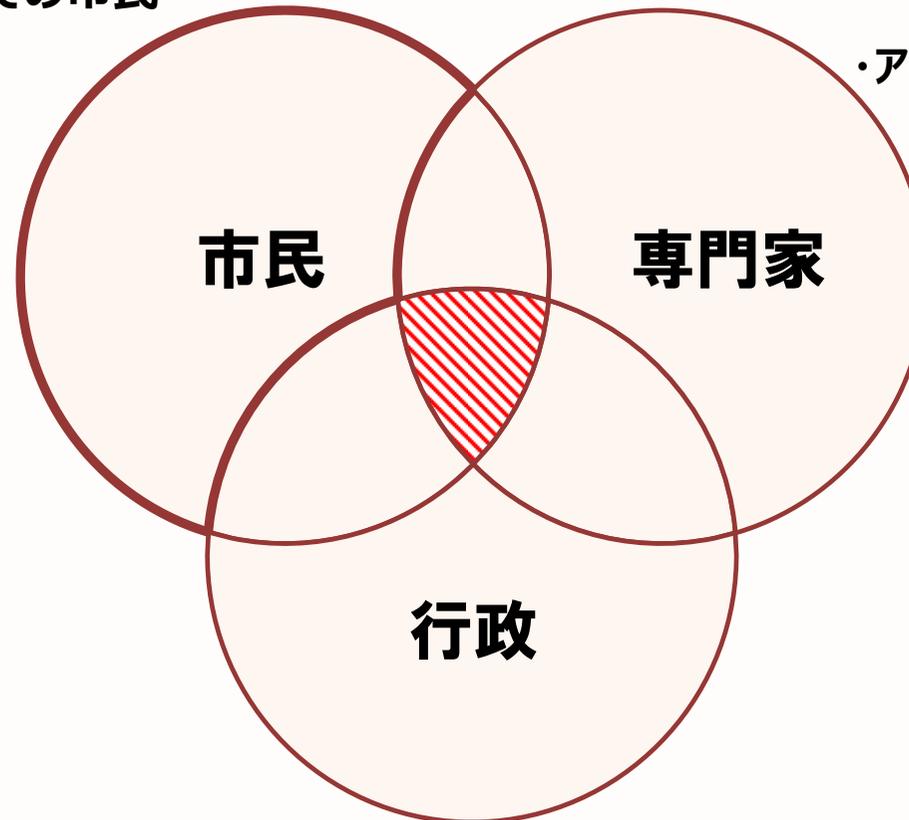
市民自身で解決 専門家 自治体がサポートする



オープンガバナンスのプレイヤーたち

・アイデアのけん引役としての市民

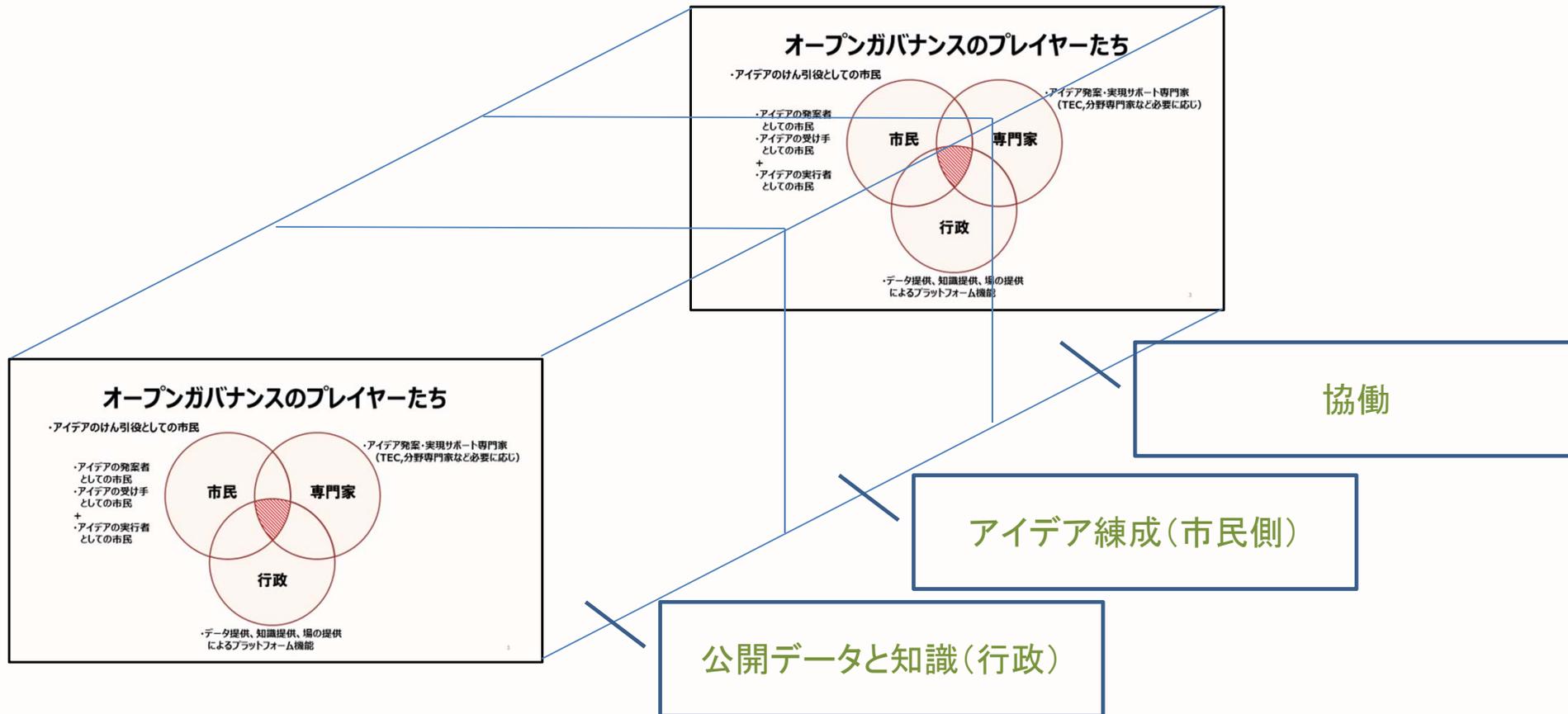
- ・アイデアの発案者としての市民
- ・アイデアの受け手としての市民
- +
- ・アイデアの実行者としての市民



- ・アイデア発案・実現サポート専門家
(TEC,分野専門家など必要に応じ)

- ・データ提供、知識提供、場の提供
によるプラットフォーム機能

プレイヤーたちと機能のモデル（案）



あるといいね使っていいね デザイン思考

奥村 裕一

東京大学公共政策大学院

デザイン思考とは

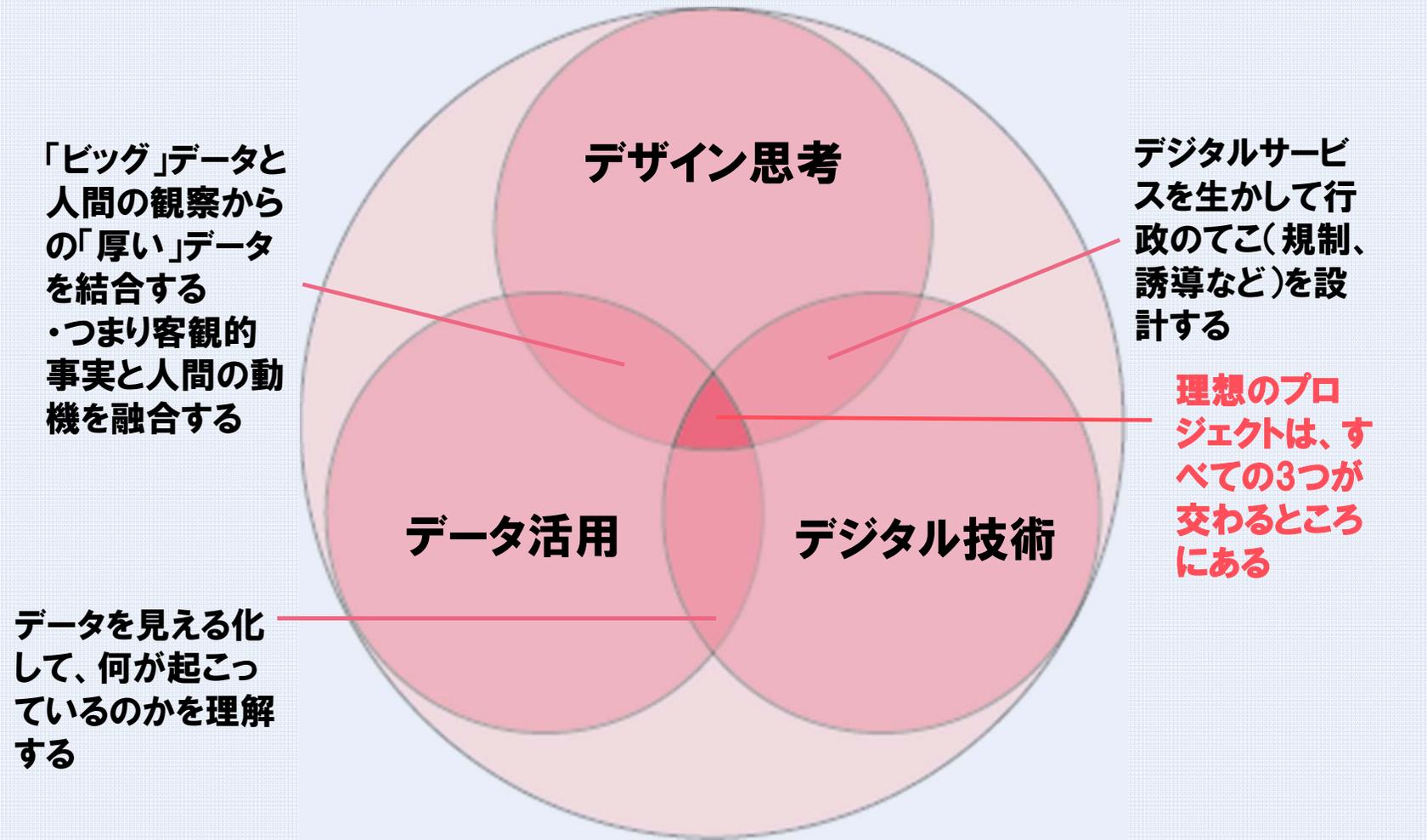
- 「モノ」を作るとき、われわれは伝統的に「モノ」の出来上がった姿を描いてから作ってきた。
 - 「モノ」= 建物、都市、製品、ポスター、ウェブサイト
- その典型の手法が設計図や模型と繰り返し。
- この設計図や模型を見て繰り返し、使い勝手や印象を判断して、使う人にとってより共感できる「モノ」を作ろうとしてきた。

- この方法論を「モノ」に限らず、サービスに生かして、より人にとって共感の得られるサービスをデザインする。
- その政策への応用型もありそれが「デザイン思考による政策形成」

政策向けデザインラボいくつか

分類	ラボ名	国	概要
政府	・ Mind Lab	デンマーク	2002年設立 世界で最も古いラボの一つ。 三省で設立。中立の場の提供。市民・企業との接点。 18-20人のスタッフ。 デザイン指向中心。
	・ Policy Lab	英国	2014年設立。 Civil Service Reform の一環でCabinetに設立。 7人のスタッフ。
	・ The Lab@OPM	米国	2012年設立。 Food and Nutrition Services、USDAなどと連携。 中立の場の提供。
公益法人 ⇒独立	・ NESTA	英国	設立は1998年。イノベーション推進。 最近にいたりデザイン思考導入。

政策形成の3D



なぜデザイン思考か

1. 課題解決のアイデアは社会に受け入れられて意味があり
2. そのアイデアを利用する潜在的なユーザーがどう受け入れるかがカギ
3. ユーザー（人間）の行動を大事にするデザイン思考の活用が有効
4. いいアイデアに仕上げるには仮説検証繰り返しと共同作業が不可欠
5. これもデザイン思考の要点

デザイン思考の基盤 (COG版)

ユーザー目線

1. 人間を観察する (課題を深掘りする)
 - ・ ユーザーに徹底的に焦点・共感 市民主役はこちら
2. 将来こうありたい・したい (仮説を立てて創造)
 - ・ 課題解決のアイデアをいろいろ考える

提供者目線

3. アイデアを提供する側の視点での課題に挑戦
 - ・ お金はまわる? 体制は? できるだけ自分でやる!

4. 繰り返していい (ループバック)
5. 一緒に、、する (CO-)

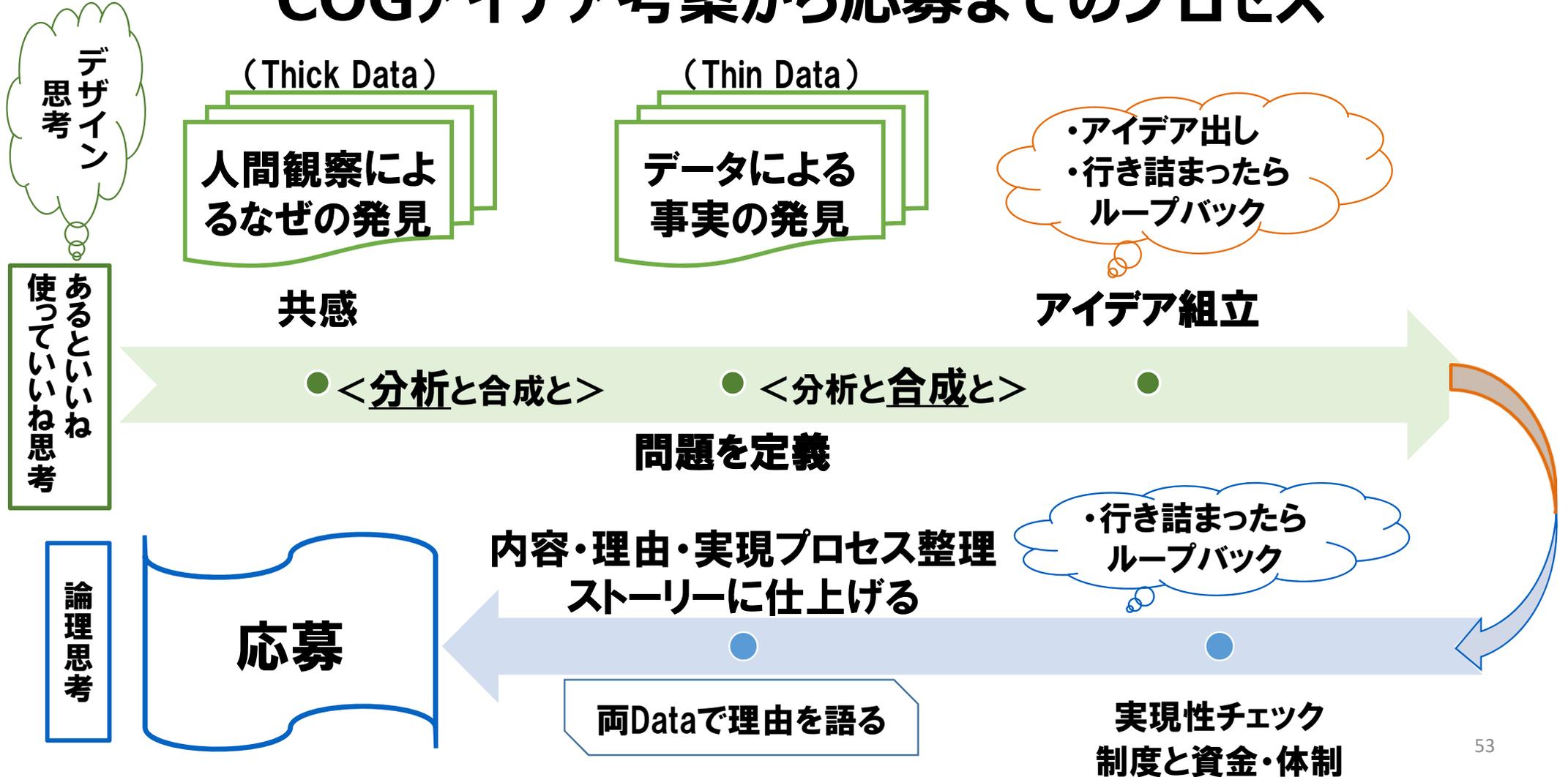
(Thick Data)

人間の行動のなぜを知るデータ
人の行動観察 (エスノグラフィー)

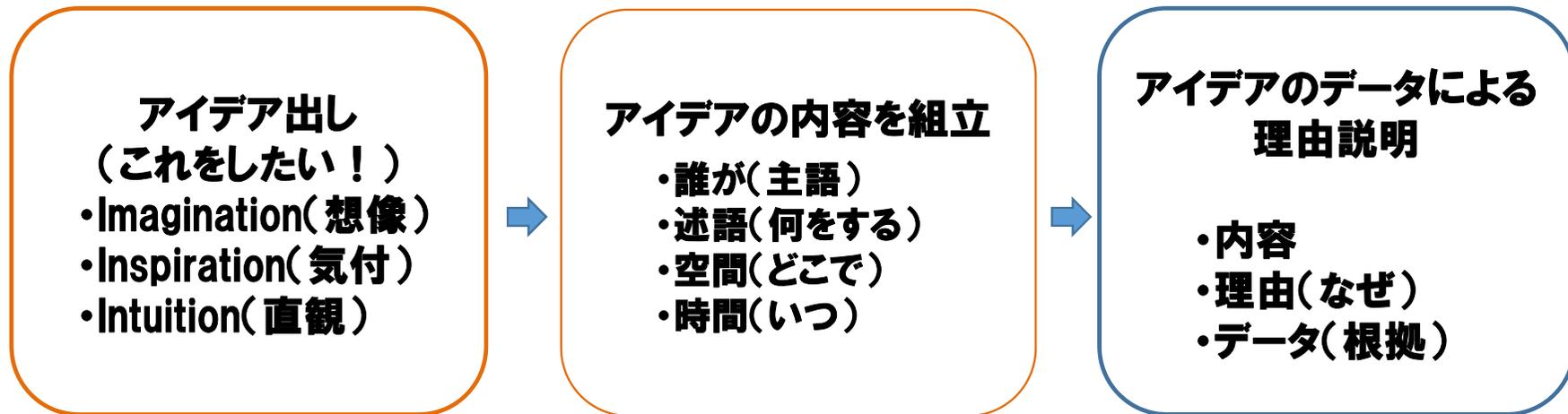
(Thin Data)

事実を知るデータ
統計やBig Dataなど

COGアイデア考案から応募までのプロセス



最初のアイデア出しは3Iで！！



Thinking Fast

< Kahneman >

Thinking Slow

Thicker

Data

Thinner

Thick Data vs Thin Data

- Thick Data (定性データ) ← Thin Data(統計,ビッグデータ)
- 人間の行動の**なぜ**を知る
 - ↑
 - **Thick description(1973)**
 - C. Geertz
 - **文化人類学**
 - 文脈の中でデータが**意味**をもつ
 - **ストーリー**を語る
- 人間の行動の**結果**を知る

Thick dataの例

- (例)「乳幼児を抱えるお母さんたちの『肉団子が美味しかったことに救われた』というような発言を、thick dataとしてどう扱うか」
 - 母親の、「肉団子を食べる」、「美味しかった」→「救われた」の真の理由（なぜの追究）は多分、
 - ①肉団子を【主体的に選択して】食べることができた（いつもは時間に追われとりあえず口にできるものを食べている）
 - ②【自分の好きなもの】（肉団子）を食べることができた（ 同上 ）
 - ③【冷めていないもの】を食べることができた（ 同上 ）
 - ④【美味しい】と感覚することができた＝健康を実感
- から、感激して「救われた」という気持ちに至った、ということかも知れない
- →これを観察や質問で共感しながら確認修正→thick data化（定性的でよい）

- 日々あわただしいお母さんたちをほっとさせる、快適にさせる、満足させる、のは、凝りに凝った“ママ向け企画”のようなものではなく、意外とシンプルなものなのかもしれない、、、。

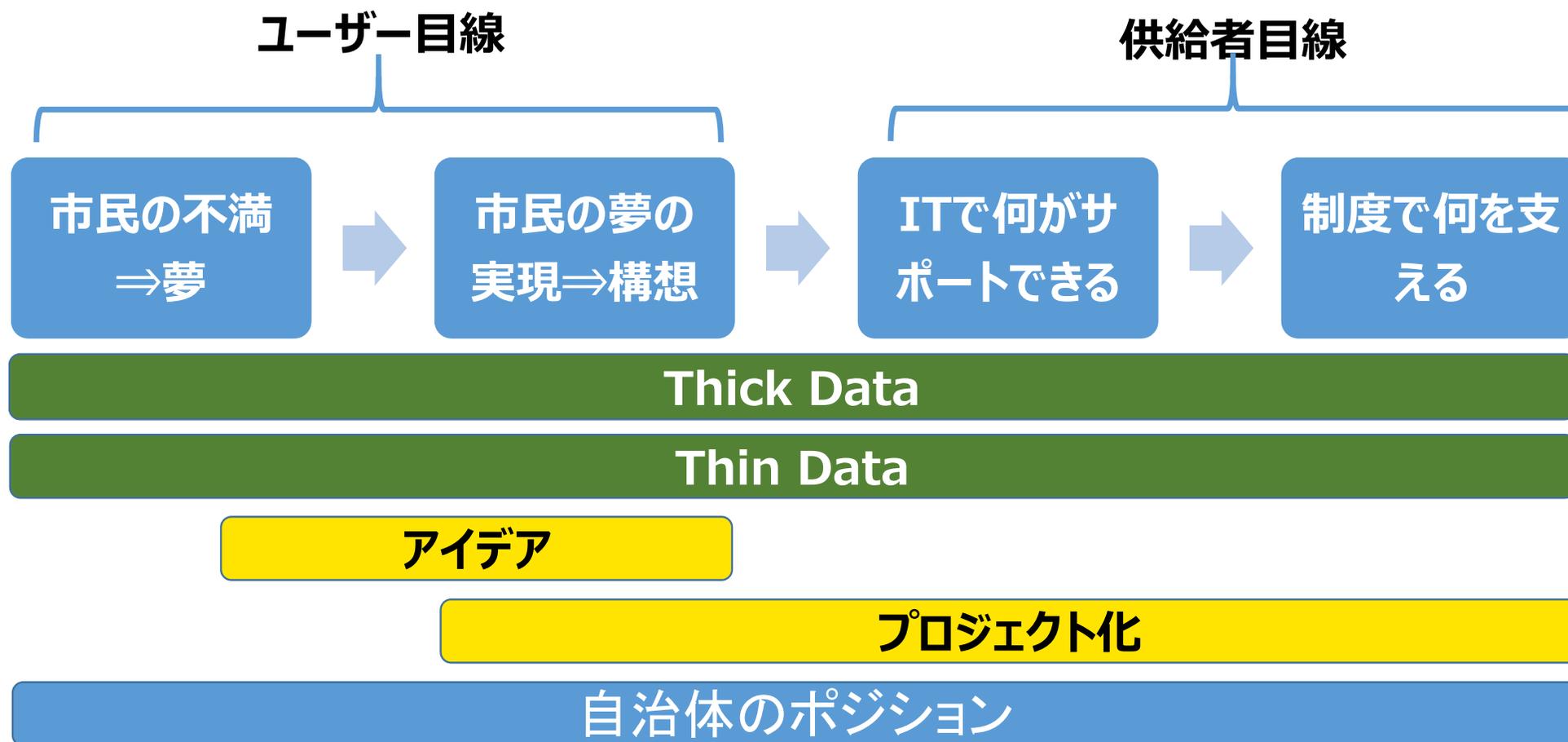
Thick Dataの演習

マイナンバーカードの普及率

- 低いのはなぜか

例を考えてみましょう

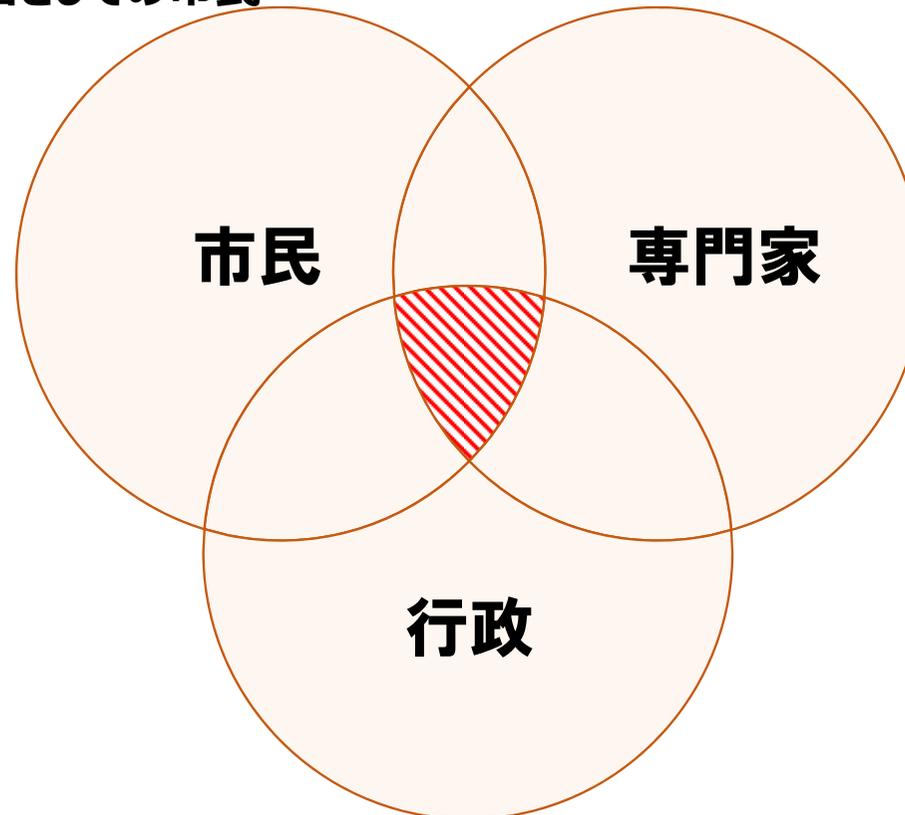
市民自身で解決 専門家 自治体がサポートする



オープンガバナンスのプレイヤーたち

・アイデアの発案者賛同者としての市民

・アイデアの受け手としての市民
・アイデアの提供者としての市民



・アイデア発案実現サポート専門家 (TEC, など)

・データ提供、知識提供、場の提供によるプラットフォーム機能

**いろいろあるデザイン思考プロセス
でも本質は共通です**

デザイン思考プロセス各種

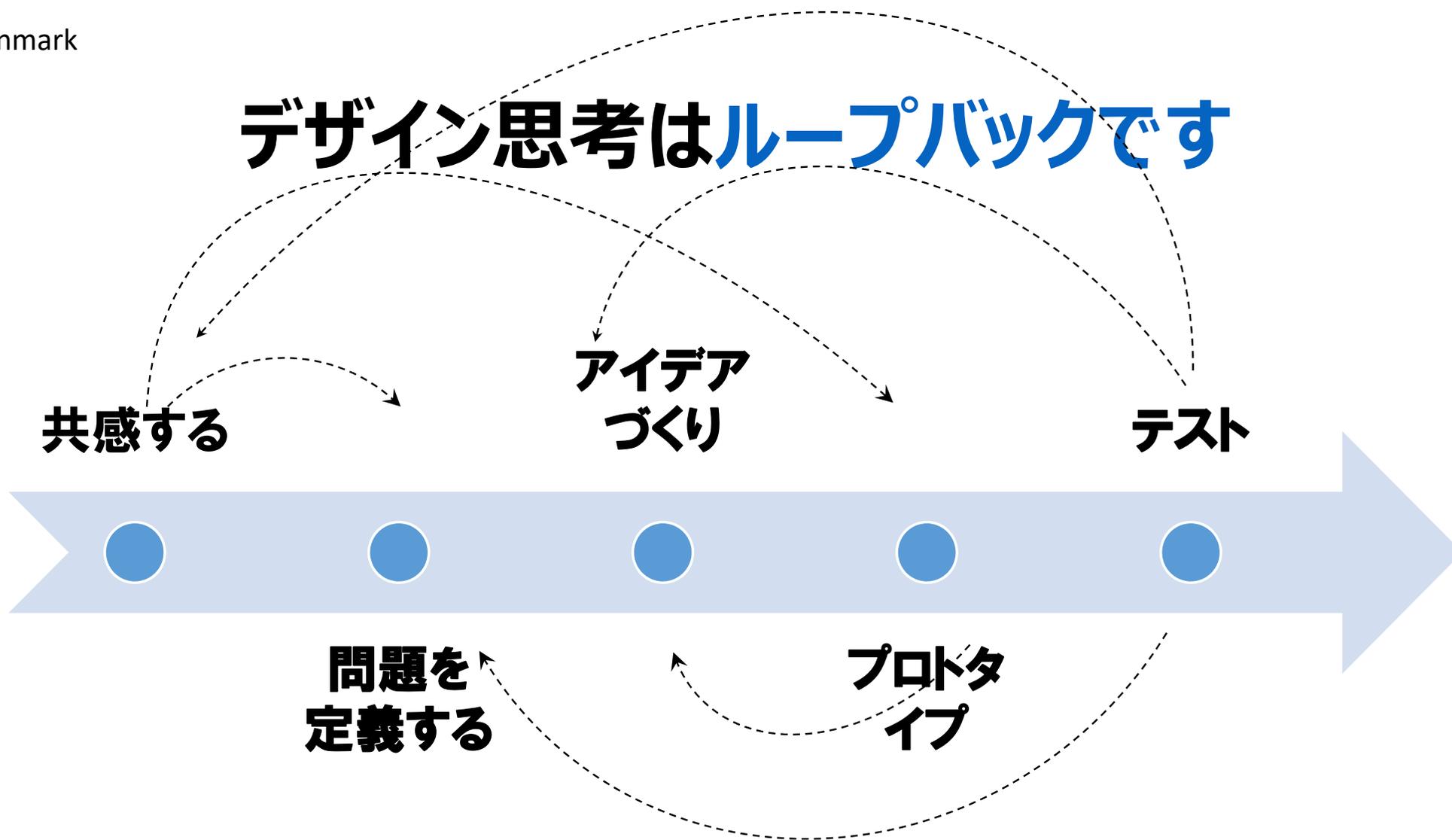
デザインプロセス	ウィキペディア / ハート・サイモン	IDEOツールキット	ティムブラウン (IDEO)	d.school / D-School(HPI)	d.schoolの Bootcamp Bootleg (HPI) - モード	Baeck & Gremett(2011)	Mark Dziersk(ファストカンパニー)	Open Policy Making toolkit, UK
問題を理解する	定義する	発見	インスピレーション	理解する	共感する: 観察し、関わり、浸る	解決する問題を定義する	(1)問題を定義する	1.診断: 政策問題を発見する
ユーザーを観察する	リサーチ			観察する		インスピレーションを 探求する		
結果を解釈する		解釈		視点を定義	定義する(問題宣言)	-		
アイデアを生成する (Ideate)	アイデア生成	アイデア生成	アイデア生成	アイデア生成	アイデア生成	複数のアイデアを生成する	(2)多くのオプションを作成し、検討する	3.開発: アイデアを生み出す
プロトタイプ、実験	プロトタイプ	実験	実装	プロトタイプ	プロトタイプ	プロトタイプを生成する	(3)選択した方向を 絞り込む(3.5)繰り返し (オプション手順2と3)	4.納品: プロトタイプ とアイデアの改善 をする
テスト、実装、改善	目標/ 選択する、実装する 学ぶ	進化 学ぶ		テスト	テスト(洗練された ソリューションを含む)	ユーザーのフィード バックを求める	(4)勝者を選び、実 行する	

デザイン思考の三つのスペース ティム・ブラウン

- デザイン思考プロセスは、一連の秩序立ったステップではなく、重なり合った3つのスペースで考えられます。
- インスピレーション： 解決策探索の動機となる問題または機会
 - ニーズを探ります。ニーズを探るためにユーザーになりきります
- アイデア： アイデアの生成、開発、テストのプロセス
 - できるだけ多くのアイデアを出します。絞らないでください。
- 実装： プロジェクトの段階から人々の生活につなげる道筋
 - プロトタイプで試していきます。

5段階デザイン思考プロセス

デザイン思考はループバックです



5段階の要点

インスピレーション

1 共感 あなたのユーザーと同じ立場に立つ

2 定義 ユーザーのニーズ、問題、洞察をまとめる

アイデア

3 アイデア 挑戦的な前提と革新的なソリューションのためのアイデアの創造

4 プロトタイプ ソリューションの作成を開始する

実装

5 テスト ソリューションに至る

デザイン思考の特質

1	あいまいさが好き	不明なことがあるときや答えがわからないときは快適
2	協働	分野間の協働が好き
3	建設的	古いアイデアに基づいた新しいアイデアの作成
4	好奇心	理解していないことや新鮮な目で物事を知ることに関心を持つ
5	共感	顧客の視点からものを見て理解する
6	ホリスティック (Holistic)	ユーザーのより大きな文脈を見ていく
7	反復	段階に関係なくソリューションやアイデアを改善する循環的プロセス
8	決めつけない	アイデア・クリエイターやアイデアにとらわれずにアイデアを作成する

“Design Thinking: Expanding UX Methods Beyond Designers” by Aline Baeck and Peter Gremett Intuit®

(参考)イノベーションの源泉



- ☆既存の制度・慣習からいったん自由になる(外部環境からの自由)
 - ・法令のような公式制度(法律、政令、省令、規則)
 - ・慣習のような非公式制度
 - ・利害関係者の範囲
 - ☆自分の専門分野から自由になる(内部環境からの自由)
 - ・あらゆるコト・モノ・世界、手始めにユーザーに関心を持つ
- ☆技術の持つ潜在力と限界の認識

参考

COG2016実績

COG2016応募結果概観

このコンテストに参加した市町村の数 = 31

ソリューションのアイデアを求める地域問題の数 = 53

市民からアイデアを受け取った市町村の数 = 28

市民からのアイデアを受けた地域問題の数 = 40

<応募者数とチーム構成>

市民 = 26

市民と学生（混在） = 17

学生 = 25

合計 = 68

<審査結果>

最終公開審査対象（ファイナリスト） = 13

セミファイナリスト = 7

ポスター展対象 = 27

全体 = 68

2017年3月12日最終公開審査の13チームの皆さん

地域	チーム名	アイデア名	属性
室蘭市	U-18 おもてなし室蘭(ACN学生賞)	旅人と地元民の心をつなぐ「おもてなしサロン」へようこそ	学生
松戸市	AAI	「演劇」と「リフレクション」で自分と相手を理解する	市民
東京都中野区	チャレンジ中野！ Grow Happy Family & Community (オープンガバナンス総合賞)	地域とつながる「子育て」&「里親制度」～ママからファミサポへ、ファミサポから里親へ～	市民
神奈川県	FerriSat (Ferris Security equipment Application Toothbrush)	目指せ犯罪ゼロ！住みやすい街 緑園都市一緑園の犯罪被害0を目指し、市民の力で安心安全なまちづくりを目指すー	混成
神奈川県	Singular Perturbations	「数理的犯罪予測を用いた警察・自治体向けパトロール経路提案システム」	市民
横浜市	花のいずみ野沿線組	相鉄いずみ野線沿線におけるシビックプライドの醸成とシティプロモーション(仮称)	混成
川崎市宮前区	みやまえ子育て応援だん(アイデア賞+ハーバード特別イノベーション賞)	「子育てにやさしいまちの空気」をつくる！～市民による市民・行政・企業三方ハッピープロジェクト～	市民
新潟市	Code for Niigata + 新潟大学・大串ゼミ(連携体制賞)	もっと知りたい地域のこと～協働で進める地域の情報発信のあり方～	混成
牧之原市	カタハマ・エージェント	アクションリサーチによる片浜小学校利活用の実現	混成
近江八幡市	立命館大学+近江八幡商工会議所	近江八幡「世界の中心で学ぶ～子供たちの夏休み寺子屋教室」プロジェクト	混成
神戸市	震災タイムスリップウォーク	震災非経験世代による語り継ぎ教育の導入と震災関連アーカイブの再構築	混成
生駒市	NAIST-UBI ParmoSense Developers	ParmoSense：観光客の「楽しい」をシェアするプラットフォーム	学生
福岡市	中村学園大学流通科学部 浅岡14B(3年)・15B(2年)ゼミ	唐人町商店街(福岡市)の活性化案：2つのStageによる取り組み	学生

オープンがバナンス2016総合賞事後報告抜粋

母ちゃん立ち上がる！

普通の母ちゃんがどのようにして
Engaged citizenになったのか？
(なったのか？)

チャレンジ中野！ Grow Happy Family & Community
代表 齋藤直巨

苦労したこと

- やりたい事はあるが、どうすれば良いのか分からない！
→ 誰にどんなことを頼めばいいのか、手探りでうまくいかなかった
- みんな忙しい
- データを使いこなせない（どうすればいいの？）
- いちいち緊張する



学んだこと

- 仲間を集める方法
- 妄想は大切！
- 中野区は素敵！
- データがあるからこそ、理解・共感しやすい
→「ジブンゴト」に出来る環境を整える
- 足りない情報の補い方



今後の目標（妄想）

「助けて！」は「マネージメント」と考える社会へキャンペーン

■ PRしたいこと「里親も力になります！」

★力になる仲間のネットワーク作り

■ ロードマップ作りの勉強会

・実施体制の基礎となってくる人材も巻き込みながら、アイデア磨き！

■ 助成金申請

子育てのワンストップアプリを開発したい！



COG 2016で中野区からの提供データ

COGのページに公開したもの

- 中野区の統計の総合ページ

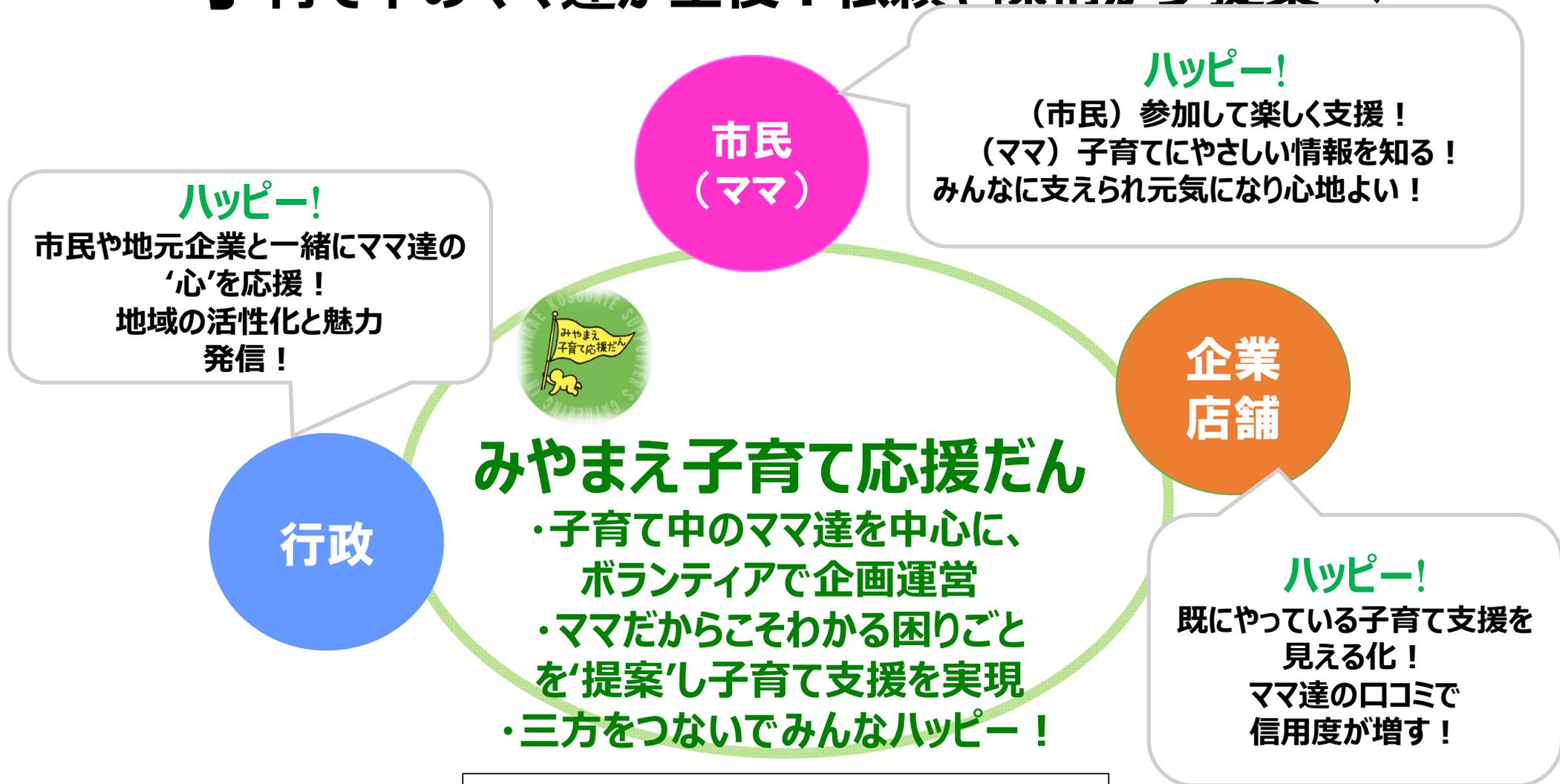
最初に提供したデータ

- 東京都保健福祉局児童相談所事業概要のリンク（東京都HPのショートカット）

追加で提供したデータ

- ファミリーサポートセンターの協力会員、利用会員数

子育て中のママ達が主役！ 依頼や陳情から‘提案’へ



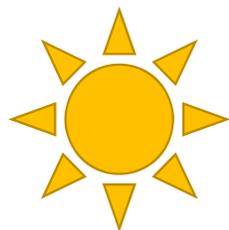
オープンがバナンス2016アイデア賞事後報告抜粋

COGに参加して良かったこと



**なんとなく、自分たちの感じていたことが、
データで裏付けられた**

自分たちは
このまま進ん
でいいんだ！



**自分たちの育ててきたアイデアが、
地域社会にどんな意味があるのか、
自分たちの目標や活動の軸を
再確認、再構築することができた**

受賞できたことで、
活動を進める自信
がついた！！

更に！

COGに参加して良かったこと

お店や施設をつなぐ活動そのものが、オープンデータに繋がっていることがわかった！

(私たちのつながりそのものが地域資源)

応募された団体との新しいつながりができた

オープン川崎
の皆さんと
連携開始！



オープンガバナンス2016連携体制賞事後報告抜粋

「チャレンジ!!オープンガバナンス2016」取り組みの振り返りとこれから
(投影版)

阿部 由紀江 (新潟市)

2017年6月10日 「チャレンジ!!オープンガバナンス2017に向けて」 於 東京大学

1.はじめに

1. COG2016に、「都市の魅力発信」をテーマにCode for Niigata (C4N)と協働。**データ活用を軸**に、市民グループ (C4N・大串ゼミ)に**自主性**を発揮してもらい、行政は**データ提供**や**つなぎ役**に徹した。

「自主性」 → アプリ開発、ゼミでのワーク

「データ提供」 → 政令市120項目データの作成 「つなぎ役」 → 翻訳者

2. 【気づき】①多様なアクターが存在しそれぞれに目指す姿や課題がある、②地方創生とは人ひとりひとりを良くすること
3. 【課題】①アプリのオープンソース化 ②アプリの普及と評価 ③**市役所内の他部署への取り組みの水平展開** → ③は容易くない課題 どうすればよいか？を考える

3.市民・学生とのコミュニケーション（ふりかえり）

- サポート・コミュニケーションにおいて常に心掛けたこと

1.相手のフィールドに入っていく

市民/学生の主体性、のびのびとした自由な発想の妨げにならないように、普段どおりの場でコミュニケーションをとった。

2.ルールを敷かない

行政の手厚いお膳立てで進捗やすすむ方向をコントロールしたり、普段と違うことをお願いしたりすることをせず、主役を市民/学生とし、サポート役（意図を説明する、データを提供するなど）にまわった。

3.“つなぎ役”を頑張る

新しい協働相手と、新しい取り組みを始めるにあたり、互いの価値を理解してもらうために、市民と行政とを仲立ちする役割が重要。

→ 今後、庁内での水平展開へ

4. 市民と行政との“協働”とは？（COGはどこを目指すのか）

「協働の類型」

- COGが目指しているのはおそらく「テーマ型」
- 比較的新しい「市民参加型」協働は、一見「テーマ型」と見分けが付きにくい、行政のコントロールが強い点などが実は「テーマ型」とは真逆の性質を持つ
- 「テーマ別コミュニティ型」に似せた「市民参加型」になってしまっていないか？

	テーマ別コミュニティ型	市民参加型	地縁コミュニティ型
事業の例	• 上位計画・施策に合致していることが前提の独自事業	• 市民参画型WS (広聴的・事業は行政)	• 防犯、環境美化など (労務提供型が多い)
行政の関与	小 (多様・流動的) • 情報 (データ) ・機会の提供 • (場合によっては) 補助金	大 • 正規の事業として完了させることと成果の責任を負う	中 • 基本的枠組みとインセンティブの設定
取り組みの性格	• (基本的には) 市民が完全に主体的	• 市民の考えを尊重 • 着地点のコントロール	• ほぼ定型の労務 • 団体の独自性も存在
市民の動機の源泉	自分達こそが課題を解決する (できる) という強い意思	関心、興味、行政との繋がり	公共心、地縁の役割、相互扶助
行政の動機の源泉	期待・殻を破り進化する →信頼感の醸成が重要	「市民の声を聴く・協働する」ことは“善”	コミュニティの良好な維持 (結果・参画そのもの)

※協働の3つの類型については、2004年7月のレポート「NPO&政府&企業、協働の時代を考える」(株)旭リサーチセンター)に先行研究あり

6.まとめと提案

- まとめ…「“オープンガバナンス”を理解（腹落ち）し実践するには課題が多い」
 - 事業完遂の責任感←→オープンであること、協働のパートナーたることへの意識の高まり
 - データ、見える化、ICTリテラシーの向上
 - 「自らの意欲と能力を発揮する」市民（グループ）の存在と相互信頼間の醸成
- 提案…“オープンガバナンス”実現に近づくために
 - 「公共」の再定義（行政の事業だけが公共的事業ではない）
 - 行政からの課題提示から出発しないCOGがあってもよいのではないか
 - 職員の能力開発（データ・情報をどう役立てるか）
 - データ活用の教育訓練メニュー、3Dモデルの普及啓発
 - 課題を解決する意欲と能力のある市民へのエンパワメント（活動支援、関与のしやすさ）
 - メニューはあるがあまり知られていない、気軽にチャレンジできない
 - 行政の既存メニューとCOGを相乗りさせる（市民協働部門へのアプローチ）

**東京大学公共政策大学院
「情報通信技術と行政」研究プログラム(PadIT)
COG2017事務局長 奥村裕一 作成
2017年8月**